

令和七年度入学者選抜学力検査本試験問題

国語

(配点)

|   |     |
|---|-----|
| 1 | 32点 |
| 2 | 39点 |
| 3 | 29点 |

(注意事項)

- 1 問題冊子は指示があるまで開かないこと。
- 2 問題は一ページから十八ページまでである。検査開始の合図のあとで確かめること。
- 3 検査中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、静かに手を高く挙げて監督者に知らせること。
- 4 解答用紙に氏名と受験番号を記入し、受験番号と一致したマーク部分を塗りつぶすこと。
- 5 解答には、必ず**H Bの黒鉛筆**を使用すること。なお、解答用紙に必要事項が正しく記入されていない場合、または解答用紙に記載してある「マーク部分塗りつぶしの見本」のとおりマーク部分が塗りつぶされていない場合は、解答が無効になることがある。
- 6 一つの解答欄に対して複数のマーク部分を塗りつぶしている場合、または指定された解答欄以外のマーク部分を塗りつぶしている場合は、有効な解答にはならない。
- 7 解答を訂正するときは、きれいに消して、消しくずを残さないこと。

# 著作権の関係上、非公開<sup>1</sup>

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

# 著作権の関係上、非公開

# 著作権の関係上、非公開

(注1) 清少納言 || 平安中期の歌人・随筆作者。

(注3) 漫然 || 特別の目的もなく事をなすさま。

(注6) ウイットに富(む) || 気のきいたことを機転をきかせて言うさま。

(注2) 鴨長明 || 鎌倉初期の歌人・随筆作者。

(注4) 道元 || 鎌倉初期の禅僧。

(注5) 栄西 || 鎌倉初期の禅僧。

(注7) 箴言 || 教訓の意味を持った短い言葉。

問1 本文中の、一カ<sup>①</sup>ン、ビ細<sup>②</sup>、コン幹<sup>③</sup>、ケン命<sup>④</sup> のカタカナ部分の漢字表記として適当なものを、次のアからエまでのの中からそれぞれ一つずつ選べ。

- ①一カ<sup>①</sup>ン ア卷 イ間 ウ環 エ貫 ②ビ細 ア微 イ備 ウ尾 エ美  
③コン幹 ア魂 イ困 ウ混 エ根 ④ケン命 ア憲 イ懸 ウ険 エ賢

問2 本文中の、空しく<sup>a</sup>、感じ<sup>b</sup>、とらえ<sup>c</sup>、費やし<sup>d</sup> の中で、**他と活用形が異なるものを一つ選べ。**

- a 空しく過<sup>(1)</sup>ごさない b 感じて c とらえられる d 費やし<sup>(1)</sup>たり

問3 本文中に、兼好は、それではいけないと考えているわけです。とあるが、兼好はどのような状態を「いけない」と考えているか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から一つ選べ。

- ア 一瞬一瞬が移り変わっていくものであるということを認識することなく、過ぎ去っていく時を無駄に過ごしている状態。  
イ 一瞬一瞬の積み重ねによって人生という長い時間が形作られていることに疑いを持ち、いらだちながら生きている状態。  
ウ 一瞬一瞬が移ろっていくその日々の中に最高の美を見出しつつ、自分の生活を常に華やかに飾りながら生きている状態。  
エ 一瞬一瞬の中にある空しさに目をとめることなく、死を迎えるための大切な準備をせずにぼんやりと過ごしている状態。

問4 本文中に、年賀状を止める宣言をするのが関の山<sup>(2)</sup>です。とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から一つ選べ。

- ア 世間との関わりを絶って生きていくことに、兼好は肯定的であるが、筆者は年賀状を止める以上の何かをすることで世間との関係を絶つても意味がないと思っているということ。  
イ 世間の習慣を無駄だと考え、それを実践して生きた兼好と違い、筆者にとっては年賀状を止めることが精いっぱい、それ以上世間のしきたりを見捨てるのは難しいということ。  
ウ 世間の人々と対立したため、習慣に縛られた生活から離れた兼好に、筆者は強くあこがれているが、年賀状を止めて世間から隔絶されることには恐怖心を持っているということ。  
エ 世間の目を気にするより大切なことがあるという兼好と違い、筆者は世間との関わりを大切にしているが、年賀状などの伝統的な習慣を減らすことには賛同しているということ。

問5 本文中に、これに似た状態が一番よい<sup>(3)</sup> とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 純粋に仏道に励んでいる状態が、する事の多さによるわずらわしさを解消し、目標に向かって進むための唯一の方法であるから。

イ 自分の思想を生活の中で実践している状態が、世俗に縛られた不自由な生き方を避けるためには必要不可欠なものであるから。

ウ 仏道修行に没頭している状態が、何かを求めることなく生きていくことこそ大切だという考えに非常に近く、望ましい境地であるから。

エ 何物も求めることをしないという状態が、日々の生活にこだわらずに自分の理想を実現していくという禅の思想に近いものであるから。

問6 本文中に、無常を受け止めて強く生きよ<sup>(4)</sup> とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 人生は人それぞれであり他者との比較は無意味だが、それでも誰かとの比較で自分の価値が決められてしまうという事実を受け止めるのが重要であるということ。

イ 人生を歩んでいくうえで、自分と他者を比較することは無意味であり、常に変わり続けるその時その時を大切にしながら生きていくことが重要であるということ。

ウ 他者からの評価は生きていくために必要ではあるが、それを得るためには、むしろ自分と他者を比較せず自分らしく生きていくことが重要であるということ。

エ 他者と比較してしまう自分の弱さを認めつつ、この世には変わらないものはないという真実のみを心のよりどころとして生きていくことが重要であるということ。

問7 本文中に、あえて単なるエッセーではなく、思想書としてとらえて、とあるが、筆者が『徒然草』をそうとらえるのはなぜか。その理由として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 人生という非常に大きなテーマについて、機転をきかせた内容を、兼好特有の心地よいリズムで記したものであるから。

イ 無常という新たな考え方を人々に伝えるだけでなく、兼好が当時の世間の常識を変えようとして述べたものであるから。

ウ 日本古来の禅という思想が、兼好の視点でとらえ直した形で表現されており、日本人にとってなじみやすいものであるから。

エ 兼好の心に浮かんだことを書いているだけでなく、自身の思想を生活に生かそうとする態度に基づき書かれたものであるから。

# 著作権の関係上、非公開<sup>2</sup>

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

# 著作権の関係上、非公開



- 問1 本文中の、額面通りに、懸念の意味として適当なものを、それぞれ次のアからエまでのの中から一つ選べ。
- (a) ア 損得抜き of 気持ちとして
- (b) ア 仮説を立てて検証する
- イ 表現された内容のままに
- ウ 型にはまった言い方として
- エ 表面的な振る舞いそのままに
- イ 何度も繰り返し指摘する
- ウ 自由気ままに言い合う
- エ 気にかかって心配に思う

(注1) 単層 || 好ましくないものが集まっているところ。

(注2) 流布 || 世間に広まること。

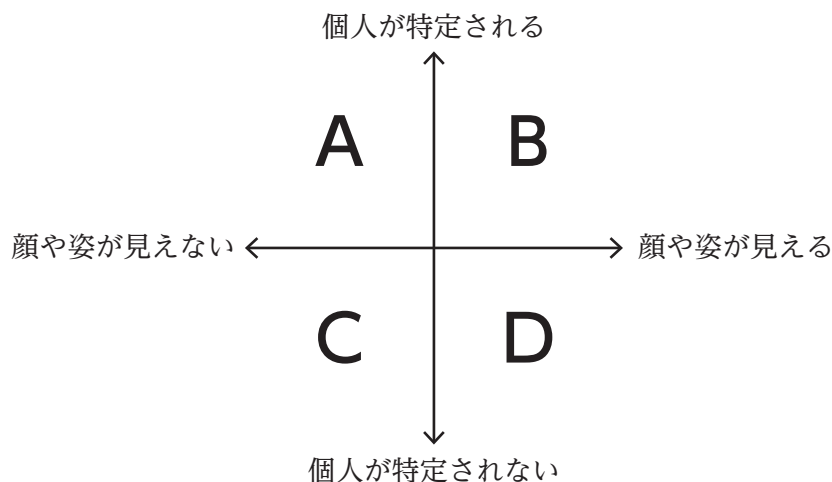


図1 匿名性の観点からみたメディア・コミュニケーションの分類

# 著作権の関係上、非公開

問2 空欄 a、b、c に入る語として適当なものを、次のアからエまでの中からそれぞれ一つずつ選べ。ただし、同じ記号は二回使わない。

ア あるいは      イ つまり      ウ たとえば      エ しかし

問3 本文中に、声の不在が意味を持つ。<sup>(1)</sup>とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 電話においては、知っている相手と話すため、沈黙したとしてもお互いの気持ちを通じ合うということ。

イ 電話においては、時間を共有しているため、沈黙したとしてもお互いの存在を感じているということ。

ウ 電話においては、空間が隔たっているため、黙っていてもお互いに気を使う必要がないということ。

エ 電話においては、相手が目の前にいないため、黙っていてもお互いに心配しないで済むということ。

問4 本文中に、「儀礼的無関心(civil inattention)」<sup>(2)</sup>とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 相手の存在を感じつつ、あえて注意を向けず、相手に対して関心を抱いていないことを示す行為。

イ 他人の存在を認めながら、意図的に相手を見無視することで、危害を加えてほしくないことを示す行為。

ウ 他人の存在を意識し、読書に没頭しているふりをすることで、会話を拒んでいるということを示す行為。

エ 相手の存在を知覚した上で、じろじろ見ることはしなくとも、警戒心を維持しているということを示す行為。

問5 本文中に、社会的属性にとられない平等なコミュニケーションが可能となる<sup>(3)</sup>とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 時空間を共有しないインターネット上では、時間や場所の制約を受けず発信できるため。

イ 都市社会における関係とは異なり、親密性を保ったまま発言することが許されるため。

ウ インターネット上では匿名性が保たれており、不特定多数に意見を発信できるため。

エ どのような人が言ったことであっても、発言の内容だけが評価されるようになるため。

問6 本文と図1を照らし合わせて、【①】、【②】、【③】、【④】に入る適当な記号を、AからDまでの中からそれぞれ一つずつ選べ。ただし、同じ記号は二回使わない。

## 著作権の関係上、非公開

3

問7 本文中の、「インターネットのメディア特性」について、筆者はどうか述べているか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア インターネット上でしばしばフレーミングが発生するのは、コミュニケーション・キューの少なさによる誤解や匿名性がもたらす無責任な発言ということに主な原因があり、身体性の欠如とはまったく関係がないと考えられている。

イ 誰が発言したかわからないという特性を持つインターネットでは、身体性の欠如とは無関係に匿名性が保証されるため、それが急激に普及し始めた一九九〇年代半ば以降、相手を知らないまま同じ空間を共有する作法が様々に考案された。

ウ 不特定多数に向けて情報発信できるインターネットの特性は、身体性の欠如と匿名性からなっているが、身体性の欠如は表情や身振りなどの非言語的な手がかりの欠如と身体そのものの欠如という二点に分けて理解する必要がある。

エ 都市化が進むなかで広がってきた「ファミリア・ストレンジャー」という考え方は、親密性と匿名性の中間的関係性を説明したものであるが、そうした特徴は身体性の欠如がもたらされたインターネットにも当てはまるものである。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

# 著作権の関係上、非公開

# 著作権の関係上、非公開

# 著作権の関係上、非公開

# 著作権の関係上、非公開

## 著作権の関係上、非公開

問1 本文中に、お礼<sup>(1)</sup>について、恩を返したい。とあるが、ここでの真島の心情を説明したものとして最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

- ア 漫画を描く楽しさをもう一度思い出させてくれた僕に、感謝を伝えることで、バレーへの情熱を取り戻してほしい。
- イ 漫画を描けないでいる自分に寄り添い、励ましてくれる存在だった僕に、新たな作品を届けることで喜んでほしい。
- ウ 自分が漫画に込めた、わかって欲しいと思っていたひそかな意味をくみ取ってくれた僕に、お礼の言葉を伝えたい。
- エ 自分にとって漫画を描くとはどういうことか、見つめなおすきっかけをくれた僕に、自分ができることで報いたい。

問2 本文中に、ようやく<sup>(2)</sup>シスターの先に行ける、とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

- ア 新人賞をとった作品が自分にとって最後の作品になるのかと思いついて、僕との関わりをきっかけにして、再び漫画を描き始めることができそうだとしたこと。
- イ 新人賞をとれたことが自分にとって最後の成果だったのでないかと思いついて、時間をかけて構想を練ったおかげで、次の作品が仕上がりそうだとしたこと。

ウ 新人賞をとったことで漫画に向ける情熱が燃え尽きてしまったのではないかと思いついて、僕がほめてくれたので、再び漫画を描



## 著作権の関係上、非公開

く自信を取り戻したということ。

工 新人賞をとれたことがプレッシャーになり思い悩んでいたが、僕の励ましで以前の自分よりも強くなれたので、より強いプレッシャーにも耐えることができるということ。

問3

本文中に、また、深海に潜っていきける<sup>(3)</sup>とあるが、これはかつて僕が真島と交わした会話を踏まえた表現である。次に示すその会話部分を

読み、「また、深海に潜っていきける」の説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

- ア 漫画を描くとき感じていた苦しさを乗り越え、これからは自分の思いを正直に表現し、楽しく漫画を描いていけると思っている。
- イ 現実を忘れるほどのめり込み、夢中で漫画を描いていた頃と同じように、再びひたむきに漫画に向き合っていると思っている。
- ウ すべての排除し、賞をとることだけを目標にしていた日々を抜け出し、これからは自分らしい漫画を作り上げようと思っている。
- エ ただ部屋にこもるのではなく、今後は漫画のストーリーに没入し、再び自分だけの世界を作り上げることができると思っている。

問4 本文中に、僕はなにも返せなかった。とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 和泉が言った「バレエを離さない」という言葉と同じことを、真島が漫画に記していたことに驚くと同時に、スポーツのできない真島から、今の自分にとって大事な言葉が聞けそうに思えて期待しているから。

イ 強豪校の選手である和泉が用いた「バレエを離さない」という言葉と、真島の力強い発言が重なるように思えて驚くと同時に、自分だつて二人に負けてはられないという思いが少しずつ芽生えてきているから。

ウ 電話をかける直前に思い出していた『私にとって切っても切り離せないもの。』という真島の漫画の台詞を、真島が口にしたことに驚くと同時に、それが今の自分にとって重要な言葉のように感じられて動揺しているから。

エ 自分が思い浮かべていた『私にとって切っても切り離せないもの。』という真島の漫画の台詞を、真島も口にしたことに驚くと同時に、以前自分が見落としていた意味を、改めて真島に指摘されてとまどっているから。

問5 本文中に、テトリスで凸の形のブロックが空いた部分にちょうどぴったりはまるような感覚だった。とあるが、どういふことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 真島との会話をきっかけに自分の問題の解決策がわかり、人に心を打ち明けられることの意義を知ったということ。

イ 真島とのやり取りを通して気持ちが軽くなり、彼女が自分にとって大切な存在になったと気づいたということ。

ウ 真島の言葉が自分の状況にも当てはまり、悩んでいたのは自分だけではないとわかって安心したということ。

エ 真島の言葉がこれまで漠然と悩んでいたこととつながり、気持ちの整理がついてすっきりしたということ。

問6 本文中に、僕と真島だけがこの知らない夜の学校に忍び込んでいるような気分を覚えた。とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 真島の漫画に向き合う姿勢が自分とバレエとの関係に重なり、電話で話しているということを忘れるほど真島の存在を近くに感じているから。

イ 自分がバレエに対して悩んでいたことに真島が気づいていたとわかり、電話を通して互いの気持ちを理解することができると感じているから。

ウ かつて真島が夜の美術準備室に忍び込んでいたことを思い出し、夜の学校で電話をしている自分と真島とは共通点があると思っっているから。

工 自分の忠告がきっかけで真島が漫画に対する情熱を取り戻しつつあると知り、このまま誰にも知られずに電話で話し続けたいと思ってるから。

問7 本文中に、とりあえず、とりあえずいまは、はっきりさせないままでもいいと思った。<sup>(7)</sup>とあるが、ここでの僕の説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 自分がなぜバレーを続けているかがもう少しでわかりそうだが、まだ確信は持っていないので、共にコートで戦う中で仲間を示してもらいたいと思っている。

イ 自分にとってバレーとは何なのか感覚としては理解できたが、それを今言葉にするのではなく、実際のプレーに臨むときに実感できればいいと思っている。

ウ 自分が本当はバレーに対して熱い思いを持っていることはわかったが、それをはっきりと主張すると、今までの自分のイメージが壊れてしまうと思っている。

エ 自分にとってバレーとは何なのかはわかったが、自分にとって真島がどんな存在なのかはまだわからないので、少しずつ関係を進めていきたいと思っている。

